



NPOってなに？ 失敗を繰り返して見つけた私の働き方

◇ 今回は、林加奈さん（滋賀大学経済学部・NPO法人勤務）のレポートです！

こんにちは。2010年卒の林加奈です。高校時代は文系で、滋賀大学経済学部へ進学しました。現在は皆さんもおなじみ「高校ぶうめらん」を制作している、特定非営利活動法人せき・まちづくりNPOぶうめらんというNPO法人で働いています。

私はほかの活躍する卒業生の皆さんと比べて華々しい経歴やエピソードはありません（笑）。むしろ、失敗談には事欠かない人間です。今回はそんな先輩もいるのか、と少し安心してもらいながら、私が現在の仕事に至るまでの話と、大事にしている考え方を知ってもらえればと思います。

留年しました

早速ですが、文字通り留年しました。滋賀大学は2年生時に必要な単位を揃えていないと、進級できません。海外留学や長期インターンシップ（企業等で就業体験すること）など、前向きな理由であれば良いのですが、私の場合はたった1単位落としたという、勉強を疎かにしたための残念な結果です。ひたすら親に平謝りでした。怒られながらも、もう一年トライすることを許されました。

学生生活で積み重ねたこと

どうしようもない人間でしたが、自分が熱心に取り組めることにも出会いました。

それは、**地域貢献型のサークル活動**です。サークルでは、大学のある彦根市の地域の方々と一緒に活動してきました。商店街の方々は、彦根城周辺以外の地域へ観光客をいかに誘導するかを目的として、私たちの先輩が開発したケータイを使ったスタンプラリーシステムをまちのイベントに活用しました。また、JR彦根駅と協力して、彦根城のある西口とは反対の、あまり知られていない東口の文化財への周知を目的として、駅構内に大きなマップを掲載しました。（今でも改札を出たところに掲載されています。）障がい者の方々は、彼ら彼女らが作る焼き菓子（「彦華堂クッキー」といって、めちゃめちゃおいしいです）の販路開拓と、工房内の作業改善に努めました。

実践が伴うと、大学の授業もひととき楽しくなりました。自分たちの活動に学生ながらもできることを付け足していきました。偏った人間なので、ある講義では満点をとったりしました。ああ、その余剰点数を不可科目に分けたかった（笑）経済学部、いいですよ（笑）

ほかにも、滋賀大学には「就業力育成支援室（現在は地域連携教育推進室）」があり、そこで企画されるセミナーや講義は地域に出て考え、活動するものや自分のキャリアについて考えるもので、ここでの先生や地域の方々との出会いも、今の私に大きく影響しています。



学内の活動報告会の様子

学生の頃から大人たちの意見や姿勢に触れられたことや、課題について考えるという視点が持てたのは、留学の痛手を越えるほどのかけがえのない経験です。

これらの経験がきっかけで、「そういえば、関市ってどうなんだろう。自分の地元のことを全然知らないよな。」と考えるようになり、帰省の折や、就職活動時に関市のイベントやセミナーなどに参加するようになりました。これが後々、自分を助けることになります。



滋賀大学 SIFE のメンバーと

一度目の就職

次の残念なお話はこちらになります。実は、一度仕事を転職しています。以前はお米の販売や、精米ラインの設計・メンテナンスをする会社の事務にいました。社員も少ない会社で、その年の新入社員は私だけ。初めは頑張るぞという気概でしたが、仕事が終わらず、周りに相談できなかった結果叱られる毎日で、どんどん元気を失いました。「自分のせいでこうなっている」と考えていましたが、家族など周りの強い勧めで、思い切って退職しました。

新入社員は、学生時代の変な自信を一度壊されて、社会の厳しさを味わう時代ではあるかもしれませんが、ですが、明らかに SNS の投稿頻度が落ちたり、外に出る元気がわかなくなったり、誰とも関わりたくないと思ったのが、「やばい」と思った瞬間でした。後ろ向きな形で辞めましたが、ここで教わった事務作業は、今の仕事にも活かしています。

NPO 法人ってなに？二度目の就職

二度目の就職は、退職後ゼロ日で働き始めました。というのも、前職をやめたいと考えていた頃に、今の上司から、「うちにこない？」と声をかけてもらったからです。上司とは、私が学生時代に関で関わりを持ったことがきっかけでお世話になっていました。一度目の就職時にも関に何らかの形で関わり続けたいと考えており、その時にも相談していたので、きっと覚えていてもらえたのだと思います。

NPO というと、どんなことをしているか、皆さんは想像がつかますか？「NPO」とは「Non-Profit Organization」の略称で、その名の通り「非営利組織」といい、様々な社会貢献活動を行います。よく、「給料ってでるの？」と言われますが、給料はです。株式会社のように、株主に配当するなど、収益を分配することがだめなだけで、いくら稼いでも OK なのです。一般的な企業との大きな違いは、企業は「利益の最大化」が目的であるのに対し、NPO は「社会貢献」や「社会課題の解決」を目的とします。平たく言えば、あらゆる手段で儲けるのか、あらゆる手段で課題を解決するのか、ということです。ぶらめらんでは、「若者が関に戻ってきて、住み続けられるまちへ」を目的として、皆さんへ関の企業を知ってもらう「高校ぶらめらん」を配布したり、行政（市役所など）から仕事をもらってきて、市民団体や事業者さんの相談に乗ったりしています。

この仕事は私にとってかなりやりがいのある仕事です。関の素敵な場所、食べ物や、関のために活動している素敵な人々に出会えます。もちろん関の活動だけでなく、全国の先進事例を関のまちづくりに生かすために学ぶこともあります。

前職でなぜ自分がだめになったのかも少しずつ分かるようになりました。その仕事にどんな意味があ

るのかきちんと理解し、周りに協力を求める大切さ。「持ちつ持たれつ」という関係のゆるやかながらもしなやかな仕事のやりとり。相手の思惑を細かいところまで想像し、解決策の仮説を立てて話を聞き、提案すること。現在も至らない所が多く、周囲に手を借りながらのやっとのこともあります。「次はこうしよう」と、思考が前向きになってきました。地味な作業もありますが、どれも意味のあることばかりで、日々新しいことに会うこの仕事のスタイルが自分には合っているようです。



事業の方向性について作戦会議中

最後に =自分の目標がわからないときは=

皆さんの中には、「なりたい自分を見つける」ために進学する人も多いかと思います。ではそんな自分に、どうしたら出会えるのか。経済学には、「経済人モデル」と「経営人モデル」という概念があります。「経済人モデル」とは、人はあらゆる事象を知っていて、常に最適な選択ができるという考え方で、「経営人モデル」は、あらゆる事象を把握するには限りがあるため、最適な選択ではなく、自分が満足する選択をとる、という考え方です。私たちのこれまでしてきた「選択」は、後者の概念に近いと思います。

皆さんは、好きなことや、習慣、ゆずれないポリシーはありますか？ 私は、地域に触れ、そこで生きている人々と出会い、関市のことが好きな自分に気づきました。「自分の身近な問題を解決したい」と考える、頑固な自分を知りました。高校生当時はそんなことは全く考えておらず、友達とバカ騒ぎの日々を送っていました（本当にうるさかったらしい）。

自分の生き方、価値観は、これまで積み上げてきた経験や知識と、それに対する自分の考察の深さで見つけられ、いつでも変わります。もう一つ言うと、どんな出会いが影響したとしても、その時の選択は全て、自分で決断した結果です。どんな結果も自分で受け止めて、自分の人生を楽しんじゃってください。